

## 系統基礎データ（器官重量測定・血液生化学的検査結果）

項目	内容
使用動物	B6C3F1/Cr1マウス
使用匹数	雄24匹,雌24匹
期間	2013年9月10日-2013年12月4日
実施施設	(1) 日本チャールス・リバー株式会社 日野飼育センター (2) 株式会社日本バイオリサーチセンター
飼育条件	(1) 日本チャールス・リバー株式会社 日野飼育センター 飼料：CRF-1（110℃30分オートクレーブ滅菌）を自由摂餌させた。 給水：上水道水をフィルター除塵、紫外線殺菌、次亜塩素酸ナトリウム添加（管理値5-8ppm）後、再フィルター捕集した水を自動給水ノズルにより自由摂取させた。 床敷：ホワイトフレーク ケージ：プラスチック製ケージ（292mmx 440mm x 200mm） 収容匹数：12匹/ケージ 温度：20～25℃ 湿度：40～70% 明暗：12時間明暗サイクル（6:00～18:00明期） 備考：9週齢まで本施設にて飼育後、雌雄各24匹を株式会社日本バイオリサーチセンターに出荷した。  (2) 株式会社日本バイオリサーチセンター 飼料：CRF-1（110℃30分オートクレーブ滅菌）を自由摂餌させた。 給水：水道水を給水瓶に入れ自由摂取させた。 床敷：ホワイトフレーク ケージ：プラスチック製ケージ（175mm×245mm×125 mm） 収容匹数：4匹/ケージ 温度：設定値23℃（許容範囲: 20～26℃） 湿度：設定値55%（許容範囲: 40～70%） 明暗：12時間明暗サイクル（6:00～18:00明期） 備考：9週齢にて動物を納品後、1週間馴化飼育を行った。
遵守する動物の福祉に関する指針等	本試験は「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年10月1日制定、平成24年9月5日改正）」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成18年4月28日 環境省告示第88号）」、「実験動物福祉規程（平成17年4月1日制定、平成23年1月11日改訂、日本チャールス・リバー株式会社）」の定めに沿い、適正に実験動物を取り扱った。また、本試験は日本チャールス・リバー株式会社における実験動物福祉委員会で審査承認を受け実施した。

項目	内容		
器官重量測定	10週齢の動物を16時間絶食後、解剖直前に体重測定を行った。次いで、20%イソフルラン吸入麻酔を行った後、腹大動脈より採血した。採血した動物を放血致死させた後に器官・組織の肉眼的観察を行い、脳、胸腺、心臓、肺（気管支を含む）、肝臓、脾臓、腎臓、雄性生殖器（精巣、精巣上体）、雌性生殖器（卵巣、子宮）の重量を測定した。また、対器官は左右各々で秤量した。なお、剖検前の体重を基準として器官重量の体重比（相対重量）を算出した。		
血液生化学的検査	20%イソフルランによる麻酔下で、腹大動脈からポリプロピレン製ディスプレイ注射筒および23G注射針を用いて全採血した。遠心機を用いて遠心分離 [約4℃、3000 rpm (約2150×g)、15分間] し、測定用血清を分取した。測定用血清を用いて以下の検査を行った。		
	項目	単位	測定方法
	AST	IU/L	MDH-UV法 (JSCC標準化対応法)
	ALT	IU/L	LDH-UV法 (JSCC標準化対応法)
	ALP	IU/L	p-ニトロフェニルリン酸基質法 (JSCC標準化対応法)
	総コレステロール (T-Cho)	mg/dL	COD・HDAOS法
	トリグリセライド (TG)	mg/dL	GPO・HDAOS法 (グリセリン消去法)
	総蛋白 (TP)	g/dL	Biuret法
	尿素窒素 (UN)	mg/dL	ウレアーゼ・GIDH法
	クレアチニン (CRE)	mg/dL	クレアチニナーゼ・F-DAOS法
	総ビリルビン (T-Bil)	mg/dL	BOD法
	ブドウ糖 (Glu)	mg/dL	ヘキソキナーゼ・G-6-PDH法
	無機リン (IP)	mg/dL	PNP・XDH法
	カルシウム (Ca)	mg/dL	o-CPC法
	ナトリウム (Na)	mEq/L	イオン選択電極法
	カリウム (K)	mEq/L	イオン選択電極法
	塩素 (Cl)	mEq/L	イオン選択電極法
	アルブミン (Alb)	g/dL	BCG法
	A/G比	—	総蛋白値とアルブミン値から算出

生化学自動分析装置  
AU 400  
(ベックマン・コールター・バイオメディカル株式会社)



